

高等学校グランドデザイン会議第4回東青・下北地区部会概要

日時：平成19年 6月11日(月)

13:00～15:00

場所：県庁北棟8階A会議室

<出席者>

佐々木部会長 遠島副部会長 木村委員 工藤委員 佐々木司委員 遠間委員

開会

司会

それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議 第4回東青・下北地区部会」を開会いたします。次第によりまして、高等学校グランドデザイン会議におけるこれまでの検討状況(中間まとめ)に係る概要説明を事務局からさせていただきます。

高等学校グランドデザイン会議におけるこれまでの検討状況(中間まとめ)に係る概要説明

事務局

東青・下北地区部会はこれまでに3回行われました。第1・2専門委員会の意見が取りまとめた形で第4回検討会議に上げられ、その会議において大筋は了承された上で、若干の字句文言の整理をするという事で議長が引き取り、それを修正して4月23日に議長から教育長へ中間の意見の取りまとめという形で提出されたものです。他の専門委員会等が担当した部分については今まで見ていない所もありますので、そこも含めてもう一度確認していただいております。

この中間まとめについては、県教育委員会のホームページで県民の皆さんからの意見を伺っております。また、中学校長会、高校長協会からも意見をいただいている所です。

これにつきましては、7月の検討会議に諮り、修正して行くものと考えていますし、この地区部会の意見も報告されるものと考えております。

以上が、中間まとめの経緯です。

【事務局から、参考資料に基づき説明】

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは佐々木部会長に進行をお願いします。

意見交換

佐々木部会長

皆さんお忙しいようで、御覧の出席人数で寂しい限りですが、できるだけ意見をいただきたいと思います。事前に中間まとめを送付してありますが、これまで検討会議ではポイントが定まらないまま話が多岐に渡り掴みきれない部分がありましたが、こうしてまとめると方向性が漠然とながら見えて来ましたので、皆さんも新たに話ができると思います。地区部会として中間まとめに対するそれぞれの立場からの意見があればいいと思いますので、協力をお願いします。

まず、「1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方」に入りますが、「(1) 1 学年当たりの適正な学級数」について意見はありますか

遠島副部会長

は 以外の全ての学校という事になるのだと思いますが、三市の専門高校と総合学科をあえて分けている理由があれば教えてください。

事務局

議論の過程で、それ以外という表現は失礼ではないかという事です。

遠島副部会長

三市以外でも失礼だと思いますが。 は5学級になるようであれば、改編・統合する事もやむをえないという事でしょう。それはいいのですが、 はその他の学校が3学級になるようであれば統合しますよという意味だと思うのですが、三市以外で現在5～6学級の学校が4学級まで下げられるのではないかと不安を非常に感じる文章です。教育水準・教育条件・教育環境の維持・向上という観点からすると、三市以外でも受験を目指す学校であれば4学級では教員配置等の面で厳しいと思いますが、どういう意図か教えてください。

佐々木部会長

これは表現上の問題です。検討会議のニュアンスでは、最低ラインが4学級以上としているので、5学級の学校が4学級に減らされる心配は無いでしょうが、そういう意見があるのであればやはり表現を工夫するしかないでしょう。検討会議で話しておきます。後の部分で、2学級でも存続させる必要がある地区があるという話が出ますので、特例の地区もあるという背景はありますが、原則として標準はこうだという事でしょう。

「(2) 普通科等、職業学科、並びに総合学科の在り方」ですが、特にありますか。

遠島副部長

普通科等についてですが、「入学当初から普通教育に関する教科・科目についての専門教育を施すことにより生徒の進路実現を図る」となっています。例えば英語科について、中学校の先生からは中学校段階で選ぶのは難しいと言われるのですが、どうしても英語を勉強したいという思いのある子のための学科ではないかと思えますし、やはり2年生からでは遅いと思います。従って、専門教育は早い方がいいと思うのですが、この後に専門学科については括り募集という話が出ますが、そこと矛盾すると思えます。

佐々木部長

ここでは、普通科等の専門学科と専門高校の専門学科を分けているのでしょうか。

事務局

括り募集は、あくまでもこういう方法があるという事ですので、馴染む場合とそうでない場合があり、選択肢の1つとして書いてます。

遠島副部長

ここについては賛成です。

佐々木部長

次に「普通科等、職業学科、総合学科の募集割合」です。

事務局

各専門委員会において、中間まとめに対して出た意見を報告します。また、事務局から伺いたい事もあります。

普通科志向について、第1専門委員会では、中学校の先生や各委員の経験的な話でそうだという事なのですが、第2専門委員会では、裏付ける具体的なデータを出す事は難しいのではないかと、という意見が出ていました。

また、その後の「職業学科の統合・再編や、総合学科の見直しなど」という表現について、第1専門委員会から、非常に直接的過ぎるので多少表現を和らげる、という意見が出ています。

これらについて、皆さんの意見を伺いたいと思います。

佐々木部長

本県は他県に比べて職業学科の割合が高いのですが、表現を若干和らげたとしても、普通科の割合を高めようという事自体についてはいかがですか。

事務局

第1専門委員会の意見では、「職業学科の統合・再編や、総合学科の系列の見直しを進める必要がある」とする案が出ています。

佐々木部会長

表現は変わったとしても、気持ちとしてはこうだという事で理解しておきます。個人的にですが、これまでの改革で専門学科を細分化し過ぎたために就職の隘路になっていると考えています。企業側が就職する者に対し、基本的な事ができてほしいという要望が強くなっている事を含めると、基本的な教科や考え方を指導する方向でなければいけないと思います。ただ分からないのは、なお書きの部分です。募集割合は6地区にこだわらないで考える必要がある、という意味なのでしょうか。

事務局

それぞれ地区毎に経緯があつての割合の特徴なので、同じような比率で固めるのではなく穏やかにやろうという事だと思います。

佐々木部会長

理解しました。他にいかがでしょうか。

A 委員

1行目の表現に非常に抵抗があります。「全国に比して」とありますが、本県の実態を考えた時に、主体的に青森の教育をこうするのだという文言になるべきではないでしょうか。

佐々木部会長

比較で考えるのではなく、本県の在るべき姿をとという事ですね。

A 委員

そういう会議であって欲しいです。

事務局

普通科志向についてはいかがでしょうか。

A 委員

データーというのは難しいです。どこの高校に行きたいのかと聞いた時に、子ども達はある学科の中でしか選択をしないので、難しいと思います。

佐々木部会長

上北・三八地区部会でも表現上の話は出ていましたか。

事務局

表現上についても、考え方についても話は出ていました。

佐々木部会長

「(3) 適正な学校規模を実現するための方策」についていかがでしょうか。表現で気になるのが、「三市の高校を含めた」という部分が必要かという事です。

事務局

三市の高校も例外ではないという意図のようですが、第1専門委員会でも、三市の高校と郡部の高校を一緒にすると誤解を招くという意見がありましたので、「例外なく全体的に」という修正案が出ています。

同じく、後半の「思い切った」という表現が非常に情緒的なので、取ってもいいのではないかという意見がありました。

佐々木部会長

「(4) 校舎制の今後の方向性」については、これ以外は書けないでしょう。校舎制そのものの賛否はあるでしょうが、方向性はこういう感じでしょう。

「(5) 定時制の今後の方向性」について、何を見直すのでしょうか。

事務局

工業高校の定時制課程についてです。なお、「社会的存在意義が薄れてきている」という部分は言い過ぎなのでカットする、という意見がありました。

佐々木部会長

志願者の減少は工業の定時制課程に限った話ではないので、そこで見えにくくなっているのを整理してください。この範囲で、何か意見はありませんか。

「2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」の、「(1) 学科・コース等の検証」です。検証の仕方に、少しトーンの違いがあるような気がします。

「(2) これまで設置した学科・コースの今後の在り方」についてはいかがですか。

遠島副部会長

普通科等の について、「複数年にわたり志願者が定員に満たない場合は、一定に基準

を設けたうえで見直しをする必要がある。」という部分は、私の学校に突きつけられていますので、ぎりぎりの状態でも定員を満たす工夫が必要だと感じています。中学校に学校説明に行った時に、英語科を出てどういう職業に就けるのか、学校を出たらどうなるのかについて、きちんと示せていなかった気がします。そういう所に、定員が満たせなかった理由があると思います。入学した生徒のレベルを高め、自己実現、進路実現を図れるように指導するのは勿論ですが、中学校の先生や保護者が納得するような情報をお知らせして行く必要はあると思っています。こういう見直しは賛成ですし、見直しの対象にされないように頑張っています。

事務局

上北・三八地区部会の中学校の先生からは、進路指導はしているが進路が揺れ動く年代なので、決めたとおりという訳にはいかず、そういう所が汲み取られていないという意見をいただきました。

佐々木部会長

普通科に併設される専門学科は難しい状況にあります。中身が周囲に理解されていないと検証していますが、指導方法や教育課程の編成と工夫に努め、教育内容の充実を図る事で解決するのか、という問題があります。そういうレベルではない気がします。特色ある学科はそれぞれ特色ある教育内容を持ちやっているのですが、うまく理解してもらえない事に加え、そこを卒業してどうなるという進路の問題もあり、人気メニューにはなりにくいようです。普通科に併設している学科は根本から考える必要があるでしょう。定員に満たなければ見直す、という状況でもやむをえないのですが、統廃合の中で特色ある学科を旨く活かす方策は見つからないのでしょうか。今のままでは、学校が努力しても入学者を満たすまでは難しい気がします。

商業に関する学科で、そろばんをやっている所はあるのでしょうか。今は商業系の学校ではコンピューター中心でしょうから、情報活用能力については充実を図る方向にある訳です。ここでは、コミュニケーションやビジネスに関する学習にも触れていますが、あまりに網羅しオブラートに包まれた感じがし、中身が見えにくくなっている雰囲気のある文章です。商業学科をこの先どうするべきかが旨く伝わって来ません。

総合学科については、無くしようという意見はありましたか。1つの学科として、将来的にも育てて行くという方向でしたか。

事務局

系列の見直しを検討しようという話はありませんでしたが、学科自体は進学から就職まで幅広い生徒の進路志望に対し、一生懸命に取り組み成果をあげているという話でした。

佐々木部会長

多様な生徒の興味・関心に対応できるような、教育内容や指導方法の充実が図れないのが現実です。コースや系列を設定しても、限定された系列でしかありません。一方で、大学進学にも十分対応できていないという言い方もされています。一頃のような、総合学科が必要だという意気込みが今も必要なのかという気持ちがあるのです。卒業生は出ていますよね。

事務局

一番初めは七戸高校で、平成7年からスタートです。

佐々木部会長

どうして中学生や保護者の理解を得られないのかを、よく考えなくてははいけません。検討会議の立場では、現在ある学科についてこの先どうすれば充実して行くという考え方で提言するのですから、総合学科についてはきちんと対応できるように中身を充実させるように提言するという事ですね。そして、努力した結果として、充実する程の財源も無いので止めようというのは将来の話ですから、今現時点の我々のレベルではこんな感じでしょう。

「(3)普通科における全日制単位制の在り方」ですが、そうでない普通科に比べて際だった特徴はあるのですか。選択幅が広がるのですか。

事務局

教員の配置の面で若干の優遇措置があります。

佐々木部会長

それは制度的にですか。

事務局

制度上そういうメリットはありますが、どうしてもセンター試験の受験が前提なので、特色のある部分に集中して選択して単位を取るようにはなりませんし、実際にはほぼ学年制なので、あまり大きな違いはありません。

佐々木部会長

高校に生徒指導や生活指導が求められる限りは、純然たる単位制は取りにくいでしょう。逆の発想で、教員の配置が増えるのならば、全部の普通科を単位制にしてはどうなのですか。

事務局

卒業生が出たばかりですので、もう少しすると普通高校との違いがやはり出て来るの

かもしれません。

佐々木部会長

施設・設備整備に費用がかからず、先生の数が増えるならやった方がいいのではないですか。

事務局

教科を選択するので、必要な教室数は増えます。

佐々木部会長

生徒が減少して空き教室があるのではないですか。そういう発想は邪道なのかもしれませんが、現場の教員の数が不足してるという要望があるのであれば活用できるのではないのでしょうか。それで子どもの教育が旨く行くかということ、そうではないのかもしれませんが、やはり、教育効果を上げてもらい、今後の方向性を検討する下地を作って欲しいという期待はあります。

「(4)新しい学科・コース等の設置の必要性」は、この中身に尽きます。あまり作らない方がいいというニュアンスが伝わりますが、新しい学科も半永久的に需要があるのであればいいのですが、難しいです。原子力の話がここに当てはまるのですね。

「(5)統廃合による新しいタイプの高校の可能性」ですが、見出しには最初から可能性がついていましたか。

事務局

議論する段階では、こういう観点で話をしてもらいました。

佐々木部会長

中身を表している感じがするので、可能性を取ってもいいのではないですか。検討会議に話してみます。

検討会議の議長も私も同じ意見なのですが、統合するのであれば違うタイプの高校まで考えてもいいのではという事です。

「(6)専門学科の募集方法」では、括り募集が出てきます。要するに小学科を指定しないで工業という大きな枠で受験し、後で分かれるのですね。

遠島副部会長

2年に行く段階で小学科に分かれるのです。

事務局

小学科を2～3つ併せて試験を行うようなイメージです。

遠島副部長

今は細分化した学科を、機械系、電気系とまとめようという動きがありますので、これでいいと思います。

佐々木部長

これは統合した結果を考えているのですか。

事務局

今は商業高校での話が出ています。工業高校でも、市内の大きな所は1学級1学科なので、かなりの学科数です。

佐々木部長

しかし、現実問題として学科数は少ないのではないですか。

事務局

弘前工業高校は8学科です。

遠島副部長

工業高校の戦略として、1学級1学科にすると学級減をされないで済む、という事がありました。

事務局

ですから、工業高校で学級減をするためには、学科改編し学科自体を減らさなくてはいけないのです。

佐々木部長

大きい専門高校は、まだ小さい学科を多く持っているのですね。

遠島副部長

7～8学級ある学校もあります。

佐々木部長

卒業生はその分野に進んでいるのですか。

事務局

学科によります。

佐々木部会長

現在のままでも、括って募集する事は考えられるという事ですね。やはり、中学生が小学科まで決めて受験するのはなかなか難しいのでしょうか。

では休憩しましょう。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

佐々木部会長

「県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方」ですが、中高一貫教育というのは独立した言葉でしたか。

事務局

文部科学省の高校教育改革の中の文言で、併設型、連携型、中等教育学校を含めて、中高一貫教育と言っています。

ここで言っているのは、制度でなく日常的に教材研究等で協力・連携する事も大事だという話です。

佐々木部会長

「中高一貫教育以外の連携」という言い方がひっかかります。要するに、中高一貫教育でなくても連携して教育に当たりなさい、という言い方でいいのではないのでしょうか。

「また」以下の部分は、わざわざ言う事でもないのではないのでしょうか。こういう提言にはしょっちゅう出てくる内容だと思います。

工業高校と大学と連携して、新製品を開発するという可能性はあるのですか。

遠島副部会長

大変難しいですね。日本は技術がかなり高度化してるものですから、大学と産業界ではレベルが違いますし、工夫くらいはできるかもしれませんが。

佐々木部会長

大学との連携はこのくらいの表現ですか。

事務局

専門委員会からも、学校紹介だけでなく、学習活動を伴うような研究的な部分での連携を望むという話があります。

佐々木部会長

一通り見ましたが、何か意見はありますか。

これまでの検討会議の様子では、なかなかまとめるのが至難の技だと思いましたが、高いレベルでまとまっていて感心しました。

事務局にお返しします。

事務局

特にこの地域として何か意見はありますか。

佐々木部会長

これまでの雰囲気では、下北の原子力関係の新しい学科ができるのか、大湊高校の中高一貫と総合学科の将来性、通学に不便な地域の学校の存続、青森市内の統合、でしょうか。

事務局

長時間にわたり、ありがとうございました。次回は8月の開催予定ですが、近くなつた段階で再度お知らせします。